2016年に一挙認定！

神奈川県の「日本遺産」3つのストーリー

Story

「日本遺産（Japan Heritage）」は
地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の
文化・伝統を語るストーリーを
「日本遺産」として文化庁が認定するものです。
（文化庁HPより）

そんな「日本遺産」が神奈川県内で
3つ認定されています。
後世まで語り継ぎたいストーリーとは？

「鎌倉五山」と呼ばれた5つの寺が中心をなし、その筆頭が建長5（1253）年に創建された建長寺だ。

鶴岡八幡宮は頼朝が幕府を開く130年ほど前の康平6（1063）年、源頼義が京都の石清水八幡宮を由比ヶ浜に祀ったのが起源。

「鎌倉七口」と呼ばれた切通。写真の仮粧坂以外にも、朝夷奈切通や名越切通などが往時の雰囲気を残す。

旧前田侯爵家別邸は市に寄贈され、現在、鎌倉ゆかりの文筆家を紹介する鎌倉文学館として公開されている。

Story

認定されたストーリー❶

「いざ、鎌倉」

～歴史と文化が描くモザイク画のまちへ～

鎌倉

建長4（1252）年に造立が始まったという高徳院本尊の国宝銅造阿弥陀如来坐像。ほぼ造立時の像容を保つ。

源頼朝が鎌倉幕府を開いた年をかつては「いいくにつくろう」と覚えましたが、いまでは「いいはこつくろう」と、文治元（1185）年というのが一般的だそうです。この年は守護や地頭を全国に配置し支配体制を確立したときで、従来の建久3（1192）年は頼朝が征夷大将軍となり幕府体制が完成した年という見かたです。

それから約150年。足利尊氏らによって幕府が滅びる元弘3（1333）年まで、鎌倉は日本の政治の中心でした。鶴岡八幡宮と参道の若宮大路を中心に街がつくられ、たくさんの寺社が建立されました。その要となったのが臨済宗です。奈良や京都とは違った禅宗の寺が武家の都で広まりました。

鎌倉は三方を山に囲まれた天然の要害です。鎌倉に続く道は山を削りつくった切通を抜けて市街に通じました。いまもいくつか残り、往時の雰囲気を伝えます。

都が西に移ると鎌倉は次第に廃れていきます。しかし江戸時代半ば頃から江の島などとともに庶民の観光地として人気を博し、明治には海浜保養地として別荘やホテルなどが建てられます。文人も多く移り住み、独特の鎌倉文化が形成されます。まさに時代の変化とともにモザイクのように歴史と文化を紡いできた古都が鎌倉です。

写真協力：鎌倉市、鎌倉文学館

広重作「東海道五十三次細見図会　程ヶ谷」に描かれた納め太刀を担ぐ大山詣りの人々（国立国会図書館蔵）

納め太刀は徐々に大きくなり、最大で7mに及ぶものも。

Story

認定されたストーリー❷

江戸庶民の信仰と行楽の地

～巨大な木太刀を担いで「大山詣り」～

大山

大山は神奈川県西部の丹沢山地南東部に位置する、標高1252メートルの山。なだらかな稜線と尖った山頂で遠目にもわかりやすく、古くから山岳信仰の霊場として崇敬を集めてきました。

別名、雨降山と呼ばれ、雨乞いの神様としても崇められ、江戸時代中頃から大山詣りが盛んとなります。

山頂部に露出する大石が石尊大権現（石尊社）として祀られ、山頂には阿夫利神社が、中腹には大山寺が建ちます。特に水や石との縁起から、火消しや鳶、大工や石工などから篤く信仰されました。

当時、同じく崇敬を集めた富士山を詣でるには、江戸からだと箱根関所を通らなければならず、その必要もない大山は気軽に楽しめる参詣旅行として人気でした。江戸の人口が100万人の頃、年間20万人も訪れたそうです。

参拝者は仕事仲間や地域などで講を組織し、旅費を積立て順番で参りました。源頼朝が武運長久を祈願し、大山寺に太刀を奉納したという話にちなみ木太刀を奉納するのが習わしです。もう一つ、山中での滝垢離も習わしとなりました。滝で身を清めてから参拝するのですが、火消しなどは自慢の彫り物を披露する格好の場で、その様子は浮世絵にも描かれています。

宿坊が並ぶ参道。御師（先導師）と呼ばれる神職が参詣者の宿泊から登拝の道案内まで果たした。

大山阿夫利神社で行われる倭舞・巫子舞。神社は第10代崇神天皇の代に創建されたと伝わる。

天平勝宝7（755）年に創建されたと伝わる大山寺。江戸時代の人々が納め太刀を奉納した寺。

大山寺境内と背景に富士山と高尾山、相模湾に浮かぶ江の島、伊豆半島まで描いた五雲亭貞秀作「相模国大隅郡大山寺雨降神社真景」（伊勢原市教育委員会蔵）

写真協力：伊勢原市

Story

認定されたストーリー 3

鎮守府 横須賀
・呉・佐世保・舞鶴

～日本近代化の躍動を体感できるまち～

横須賀

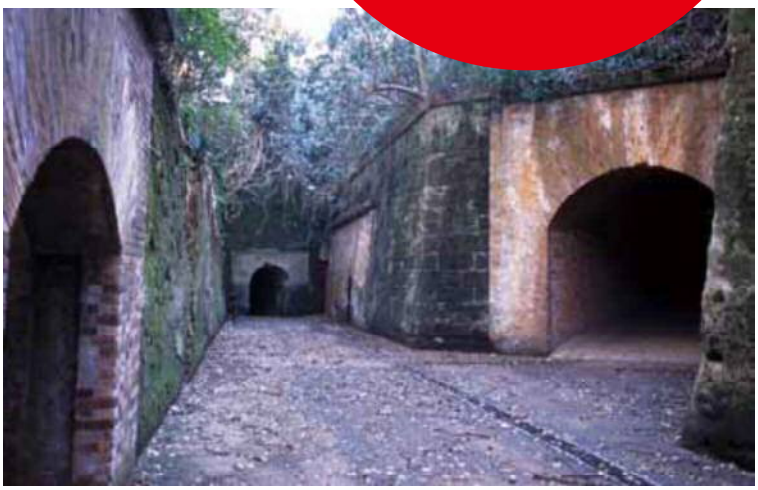
江戸時代も半ばを過ぎる頃から外国船がちょくちょく姿を見せ、幕府は海防に力を入れます。東京湾の出入口にあたる要衝、浦賀にも奉行所が置かれ、文化期（1804～1818）には台場（砲台）が築かれました。

その後、慶応元（1865）年、幕府によって浦賀に製鉄所（後に造船所）がつくられますが、建造に深く関わったのが旗本の小栗上野介です。小栗は渡米の経験があり造船の重要性を熟知していました。技術を指導したのはフランス人技術者レオンス・ヴェルニー。2人の仕事が後の横須賀の歴史に影響していくことになります。

日露戦争の日本海海戦でバルチック艦隊に勝利した旗艦の三笠が、横須賀の港に記念艦として保存されている。

明治の富国強兵と殖産興業政策のもと、全国で良港が4つ選ばれ、軍港が築かれますが、そのひとつに横須賀が選ばれ、最初に帝国海軍の鎮守府が置かれました（1884）。ドックや工廠、病院などがつくられ、以後、横須賀は軍都として発展します。

軍都と東京を守るべく周辺にも防衛設備がつくられました。横須賀沖に浮かぶ猿島には、砲台や兵舎、弾薬庫などがつくられ、島全体が要塞化。いまも遺構が残ります。市内各所にも当時の遺産が伝わり、戦後、駐留する米軍文化ともミックスした独特の雰囲気が横須賀を訪れる人々を魅了します。



東京湾要塞の猿島砲台は明治17（1884）年に完成。猿島へは三笠桟橋から定期船が出航し、10分ほどで着く。

横須賀製鉄所につくられた日本初の石造ドライドック。現在は米軍基地内となるがいまも現役である。

米海軍基地に近いどぶ板通りは、グルメやエンターテイメントなど日米の文化がミックスした雰囲気。

JR横須賀駅近くのヴェルニー記念館に展示されたスチームハンマー（国重要文化財）は平成8（1996）年まで130年間現役。

海軍がルーツの日本のカレー。明治41（1908）年のレシピに基づきつくられた「よこすか海軍カレー」。

写真協力：横須賀市